恋愛旅行

Nakatani Akihiro

中谷彰宏

愛旅行

恋愛小説3

中谷彰宏

読売新聞社

中谷彰宏（なかたに・あきひろ）
作家・俳優。1959年４月14日、大阪府堺市生まれ。78年、大阪府立三国丘高校卒業。83年、小説『目覚し時計の夢』（早稲田文学）で学生作家としてデビュー。84年、早稲田大学第一文学部演劇科卒業、博報堂入社。博報堂では、ＣＭプランナーとして、テレビ・ラジオＣＭの企画・演出をする。87年、ACCラジオＣＭ賞受賞。91年、独立し、株式会社中谷彰宏事務所設立。

＊あなたのお便りお待ちしています。
一生懸命、読みますから……。［中谷］
〒135 東京都江東区清澄１－２－１
読売新聞社出版局図書編集部気付
中谷彰宏　行

恋愛旅行（れんあいりょこう）

1997年(平成９年)10月28日　第１刷

著　者　中谷彰宏
編集人　梅田康夫
発行人　伏見　勝
発行所　読売新聞社
東京都千代田区大手町１－７－１　〒100-55
大阪市北区野崎町５－９　〒530
北九州市小倉北区明和町１－11　〒802-71
名古屋市中区栄１－17－６　〒460-70
印刷所　大日本印刷株式会社
製本所　ナショナル製本協同組合

©1997, NAKATANI, Akihiro
Printed in Japan
落丁本・乱丁本はお取り換えいたします。
定価はカバーに表示してあります。

恋愛旅行・目　次

終電の恋　9
夜の家庭教師　19
セーフティマン　33
早朝の情事　43

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

ハイヒールを履いた幽霊　59
親友の彼　75
大人の片想い　83
妊娠中の浮気　97
ストリップ・ポーカー　107

国際恋愛 119
浮気の現場 129
〈浮気の現場〉逆襲篇 139
愛人と別れる方法 143
普通の女子高生 153

不倫療法 165
おんぶ 177
最高の復讐 183
そういうことって、あるのよね 197

ブックデザイン●藤村　誠

恋愛旅行

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

終電の恋

あなたは、こんな妄想を抱いたことはないだろうか。
たとえば、あなたは、終電車に乗っている。
目の前に、かなりタイプの女性が立っている。
その人に、いきなり声をかける。
「降りませんか？」
もちろん、降りるはずの駅で、ではない。
お互いに、途中の駅で降りるのだ。
その日、僕はどうかしていた。
それは、どうかもするだろう。
会社であんな嫌なことがあったのだ。
おまけに、結婚するつもりだった彼女にも、振られてしまった。
僕がプロポーズをもたもたしているうちに、彼女は、ほかの男のプロポーズを受けてしまったのだ。
それにしても、終電車は、どうしてこんなに混(こ)んでいるのだろう。

終電に乗っている人は、みんな嫌なことがあったに違いない。
暴動が起こらないほうが不思議だ。
いや、もはや暴動を起こす気力さえ残っていないのだ。
目の前に、かなりタイプの女性が座っている。
「一緒に、降りませんか？」
僕は、声をかけていた。
声をかけた自分に驚いていた。
いつもなら、そんな勇気はない。
彼女は、顔を上げた。
ますます僕のタイプである。
ふっと顔をよけられると思っていた。
それなら、それでいい。
今日、会社で嫌なことがあったのだ。
ほっぺたのひとつも叩いてくれたほうが、さっぱりして、熟睡できるというもの

だ。
彼女は、言った。
「いいですよ」
どういうことだ？
僕は、酔っているのだろうか。
それとも、彼女が、酔っているのだろうか。
僕たちは、次の駅で降りた。
「ここ、どこだろう？」
１００万回も通っている駅なのに、降りたことはなかった。
車掌のアナウンスでしか知らない駅だった。
「私も初めて降りたから」
「いいんですか？」
「誘ったのは、あなたですよ」
電車が、ホームから出ていった。

「もう電車、ないですよ」
「はい」
「ホテルとか、行きますか？」
「そうですね、行きましょう」
いつもは、決して言えない言葉がするすると出た。
今日、振られた彼女には、何年たっても言えない言葉だった。
「あなたとセックスがしたい」
「いいですよ。うれしい」
こうなると、彼女が、そもそも、そういう商売の人かと思うかもしれない。
でも、そういう女性ではなかった。
どちらかというと、かなりまじめなタイプの女性だった。
男の子と飲んでいて終電になったというよりは、残業していて終電になったというタイプだ。
そのまま、僕たちは、ホテルに行った。

そして、愛しあった。
次の朝、ホテルを出るとその足で、市役所に行った。
そして、僕たちは、入籍した。
その次の日、彼女の両親に挨拶にいった。
さすがにちょっと、困った。
もう籍を入れてしまっているのだ。
怖そうなお父さんは、目をつぶって黙っていた。
「いつから、つきあってたの？」
彼女のお母さんが、聞いた。
彼女が、笑って僕の顔を見た。
「1か月前から」
彼女は、嘘をついた。
「まあ、たったの1か月！」
お母さんは、驚いた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb